

No.
02

ELPA Vision

Photo by Nayalan Moodley

高大接続改革における英語 4 技能テストの行方と課題

ELPA 事務局

英語 4 技能の評価（リスニング）

高校入試における国語のリスニングテストから

熊本県立大学 飯村 英樹

話すことの評価

鶴見大学 根岸 純子

テストがさらに権力化し教育を歪めるかもしれない

広島大学 柳瀬 陽介

「入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進」 に関する議論について

清泉女学院短期大学 中村 洋一

受験指導は悪くない

—建設的な受験指導のために—

上智大学 渡部 良典

英語 4 技能測定試験比較表

ELPA 編集部

特定非営利活動法人 (NPO)

ELPA
英語運用能力評価協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-4 大江ビル1階

TEL : 03-3230-0571 FAX : 03-3230-0572

<http://npo-elpa.org> elpa@english-assessment.org

高大接続改革における 英語4技能テスト（外部テスト）の行方と課題

英語運用能力評価協会（ELPA）事務局

平成27年1月、文部科学省は大学入試制度の大幅改革などを柱とした、「高大接続改革実行プラン」を公表しました。

このプランは文部科学大臣の諮問機関「中央教育審議会」より平成26年12月22日に出された答申に基づきまとめられたもので、センター試験の廃止と新テストの創設、高等学校教育改革及び大学教育改革などが示されました。併せてこの改革では新しく設計される大学入学者選抜テストの中で、〈特に英語については、四技能を総合的に評価できる問題の出題（例えば記述式問題など）や民間の資格・検定試験の活用により、「読む」「聞く」だけではなく「書く」「話す」も含めた英語の能力をバランスよく評価する〉というように、英語4技能でのテスト運用が盛り込まれました。

この「高大接続改革実行プラン」に基づき、高大接続システム改革会議における議論の中では英語4技能を測定する新しいテストについて検討がなされ、次のように開発計画が出されています。

- ◆ 27年度～ 高校3年生の英語力調査
（フィージビリティ調査：7万人）
- ◆ 28年度～ 調査設計
- ◆ 29・30年度～ プレテスト準備・実施
- ◆ 31年度より～ 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」導入（予定）
- ◆ 32年度より～ 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」導入（予定）

また、平成27年6月には「生徒の英語力向上プラン」が公表され、そのプランの中にも中学生の英語4技能を測る「全国的な学力調査」、4技能を重視した授業入試改革などの記述があります。「全国的な学力調査」

については、以下のような開発計画が出されています。

- ◆ 27年度～ 中学3年生の英語力調査
（フィージビリティ調査：6万人）
- ◆ 29・30年度～ 調査設計・予備調査
- ◆ 31年度～ 「全国的な学力調査」実施

小・中・高校を通じた改革のための取組については以下のようにまとめられています。

- ◆更に、現在、中央教育審議会で審議されている次期学習指導要領等を見据えた次のような取組を進める。

⇒4技能を重視した授業・入試改革

- ◆学習指導要領の周知徹底・改善指導、及び次期学習指導要領改訂を通して、英語4技能によるコミュニケーション能力を確実に養い、中学校の全国的な学力調査等を通じて、その状況を把握（当面は、中3、高3生の英語力のフィージビリティ調査）
- ◆高大接続改革実行プランに基づく高校教育や入試の一体的な改革による英語4技能の重視等

⇒教員の英語力・指導力向上等

- ◆小・中・高校の全教員の研修を実施（「英語教育推進リーダー」の養成）
- ◆先行実施のための研修用教材等の開発・提供
- ◆モジュール指導用ICT教材開発・整備
- ◆4技能を重視した採用の改善充実
- ◆ALT等の外部人材の積極的活用等

加えて、平成27年9月に公表された「高大接続実

行システム改革会議（中間まとめ）」の中では「英語における民間知見の活用」と表して、（英語における）民間の資格・検定試験（外部テスト）の導入がうたわれています。

具体的には、高大接続システム改革会議及び「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」との連動、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」独自の問題作成を行うべきか、民間の資格・検定試験に全面的に委ねるべきかを考えるなどの議論内容がまとめられていました。

◆英語については、既に高校生が受検する民間の資格・検定試験が複数種類存在しており、答申において、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」における英語の出題においては、4技能を総合的に評価できる問題の出題や民間の資格・検定試験の活用により、英語の能力をバランスよく評価することとされている。

◆また、答申を受け、「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」においては、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」独自の問題作成を行うべきか、民間の資格・検定試験に全面的に委ねるべきかを考えるに当たって検討すべき点として、4技能を踏まえた作問の質が適切に確保できるかどうかに加えて、

- ◆日本人の英語力の現状を踏まえたテスト開発の在り方
- ◆受検料負担など経済格差、地域による受検機会の相違等による機会の不均等の解消
- ◆各試験間の得点換算・対照表の作成及び活用等の検証の在り方

などについて議論が行われた。あわせて、同連絡協議会においては、民間の資格・検定試験団体の知見を生かしつつ国と協働で開発・実施することなど、様々な意見が報告された。

◆これらの議論を踏まえ、今後、「話す」、「書く」、「聞く」、「読む」の4技能を重視する観点から、民間の資格・検定試験の知見を積極的に活用するなどの具体的な連携の在り方について、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」に関する検討状況や民間事業者も含めた関係者の意見なども踏まえて、更に検討する必要がある。

◆上記の検討にあたっては、次期学習指導要領および現行学習指導要領との関係、求められる水準の確保等のほか、例えば、以下のような点にも留意する必要がある。

- ◆入学者選抜としての妥当性（把握しようとする能力が適切に測定されているか、また、その測定値が適切に活用されているか）や信頼性（例えば、各回の試験結果が一貫するような問題作成方法や評価基準が提示されているかなど。）
- ◆適正かつ公正で透明性の高い試験実施体制（セキュリティや不正対策も含む。）

このように、現在、高大接続システム改革会議の報告書に基づき、平成31年及び平成32年に向けて「英語4技能テスト」「4技能を測る授業改革」が進められようとしています。平成28年3月末には、高大接続システム改革会議の最終報告書が公表され、英語の評価について、以下の内容が盛り込まれました（下線は筆者加筆）。

④英語の多技能を評価する問題の導入

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の英語については、高大接続改革答申や「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」の議論も踏まえ、今後、「話すこと」「書くこと」「聞くこと」「読むこと」の四技能を重視する。

◆このような観点から、その具体的な在り方につい

て、民間の資格・検定試験の知見の積極的な活用
の在り方なども含め検討する必要がある。その際、
「高等学校基礎学力テスト（仮称）」に関する検討とも連携して進めることが重要である。

- ◆ 四技能のうち「話すこと」については、録音機能のついた電子機器（例えば、ICレコーダやタブレット型PCなど）による音声吹き込み試験とすることが考えられるが、特に環境整備や採点等の観点から、平成32年度当初からの実施可能性について十分検討する必要がある。
- ◆ 検討に当たっては、次期学習指導要領及び現行学習指導要領との関係、必要な水準の確保等のほか、例えば、以下のような点にも留意する。
- ◆ 入学者選抜としての妥当性（把握しようとする能力が適切に測定されているか、また、その測定値が適切に活用されているか）や信頼性（例えば、各回の試験結果が一貫するような問題作成方法や評価基準が提示されているかなど。）
- ◆ 適正かつ公正で透明性の高い試験実施体制（セ

キュリティや不正対策も含む。）・費用負担の在り方や受検機会の確保・継続性・安定性の確保・英語の多技能を評価する問題の実施時期については、受検者や大学の負担の軽減、採点期間の確保などの観点から、マークシート式問題とは別日程で実施することも検討する。この場合、記述式問題と同日に同一会場で実施することも考えられる。

- ◆ これらのほか、大学入学者選抜全体として英語の四技能の評価を重視する観点から、各大学の判断により、民間の英語の資格・検定試験について、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の英語の代替として活用したり、個別選抜において活用したりすることも有効である。

高大接続改革が進む中で、英語については「4技能評価」「外部試験の活用」を含め、別途議論が交わされています。ELPAではこの議論の方向性について、有識者の先生方にそれぞれのお立場から、議論の行方と今後の課題について語っていただきました。

【参考文献】

新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）（中教審第177号）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm

高大接続改革実行プランについて（平成27年1月16日策定）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/sonota/1354545.htm

「生徒の英語力向上推進プラン」について 平成27年6月5日

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1358906.htm

平成27年度英語力調査結果（高校3年生）の速報（概要）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/siryo/_icsFiles/afiedfile/2016/03/23/1367581_2.pdf

平成27年度英語力調査結果（中学3年生）の速報（概要）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/siryo/_icsFiles/afiedfile/2016/03/23/1367581_1.pdf

リスト：大学入試改革と英語4技能テストにおける平成26年5月～平成28年3月までの会議等

〈平成26年5月〉

- ◆英語教育の在り方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会の設置について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/houkoku/1348101.htm

〈平成26年6月〉

- ◆英語教育の在り方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会（第1回）配付資料

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/shiryō/1348945.htm

〈平成26年7月〉

- ◆英語教育の在り方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会（第2回）配付資料

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/shiryō/1349566.htm

- ◆CBT方式による英語スピーキングテストの開発・実施・検証について

株式会社 KJ ホールディングス（河合塾グループ）、国立大学法人京都工芸繊維大学及び株式会社イー・コミュニケーションズ

http://www.kawaijuku.jp/news/shousai.php?uktk_no=000049715

〈平成26年8月〉

- ◆平成25年度「外部検定試験を活用した英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力の検証に関する調査」報告書

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1351125.htm

- ◆英語教育の在り方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会 審議のまとめ

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/houkoku/1350999.htm

〈平成26年9月〉

- ◆平成25年度「英語教育実施状況調査」の結果について

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1351631.htm

〈平成26年10月〉

- ◆今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm

〈平成26年11月〉

- ◆英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会の設置について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/houkoku/1353573.htm

〈平成26年12月〉

- ◆英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第1回）配付資料

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/shiryō/1353870.htm

- ◆英語教育の在り方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会 審議のまとめ

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/houkoku/1350999.htm

◆大学入試に外部試験を導入する現実的方法

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/shiryu/___icsFiles/afldfile/2014/06/23/1348945_01.pdf

〈平成 27 年 3 月〉

◆英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第 2 回） 配付資料 平成 27 年 3 月 17 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/shiryu/1356067.htm

◆平成 26 年度 英語力調査結果（高校 3 年生）の速報（概要）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/106/shiryu/___icsFiles/afldfile/2015/03/26/1356067_03_1.pdf

〈平成 27 年 9 月〉

◆平成 27 年度英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第 1 回） 配付資料 平成 27 年 9 月 29 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/117/shiryu/1363335.htm

◆平成 27 年度英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第 1 回） 議事録 平成 27 年 9 月 29 日 9 時 30 分～12 時 00 分

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/117/gijiroku/1363967.htm

〈平成 28 年 3 月〉

◆平成 27 年度「英語教育強化地域拠点事業」事業経過報告書

<http://melmaga.mext.go.jp/c/0mw00yY004FQ>

◆平成 27 年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」事業経過報告書

<http://melmaga.mext.go.jp/c/orM00yY004FQ>

〈高大接続システム改革会議〉

〈平成 27 年 9 月〉

◆高大接続システム改革会議「中間まとめ」の公表について 平成 27 年 9 月 15 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1362096.htm

〈平成 28 年 3 月〉

◆高大接続システム改革会議（第 14 回） 配付資料 平成 28 年 3 月 25 日

<http://melmaga.mext.go.jp/c/GJO00yS004Fk>

◆高大接続システム改革会議「最終報告」の公表について 平成 28 年 3 月 31 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm



英語 4 技能の評価（リスニング）

高校入試における国語のリスニングテストから

熊本県立大学 飯村 英樹

通常「リスニングテスト」と言われると、英語のテストを思い浮かべることであろう。しかし近年では、国語においてもリスニングテスト（聞き取りテスト）が導入されている（*1）。旺文社（2015）に掲載されていた全国公立高校の入試問題を調べてみたところ、2015 年度は青森、秋田、千葉、島根、佐賀の 5 県で国語のリスニングテストが実施されていた。

高校入試の国語にリスニングテストが導入された背景のひとつとして、国語の学習指導要領における 4 技能の扱い方の変化が挙げられている（半田，2012）。すなわち、「読むこと・書くこと」よりも「話すこと・聞くこと」を、「文学教育」よりも「言語教育」を、さらに言語教育の中でも「文字言語」より「音声言語」を重視する方向にシフトされたのである。とはいっても、母語である日本語のリスニング能力を高校入試レベルで測定することに違和感を覚える声があるのだろう。その証拠に、2008 年度には 8 県で実施されていた（朝日新聞，2008 年 1 月 20 日）リスニングテストが、先に述べたように 2015 年度には 5 県に減少している。

しかし言語の 4 技能の評価という点から考えると、日本語の読み書き能力（リーディング、ライティング）はペーパーテストで評価し、話す力（スピーキング）

も面接試験を通して評価しているのであるから、4 技能の 1 つである聞く力（リスニング）も当然評価の対象となるべきである、という考えは妥当である。

半田（2012）は、日本人中学生と高校生、留学生（非母語話者の大学生）の日本語の聴解能力を調査し、その結果から日本語母語話者（中高生）の得点が常に留学生より高くなるわけではないことを明らかにした。また中学生、高校生においては「状況判断能力」（場面・状況をつかむ）や「情報選択能力」（必要な情報を聴き取る）といったリスニングストラテジーが十分に習得されていないことが示唆された。

このように日本語であっても中高生のリスニング力に不十分な点があることを踏まえると、中高生の英語リスニングにおける「状況判断能力」や「情報選択能力」が日本語より優れているとは考えにくい。また、母語であれば自然と身につけることができ、リスニングの障害とはならないであろう音素の聴き取りや音変化などは、外国語である英語の聞き取りの場合ではつまずきの原因となる可能性が大きい。したがって、英語のリスニングテストにおいては、日本語よりも幅広いレベルでの構成概念（*2）を設定し、テスト項目として具現化する必要があると考えられる。

〈注〉

（*1）国語の場合、「聞き取りテスト」と呼ばれることが多いが、本稿では「リスニングテスト」で統一して使用する

（*2）テストが測定しようとしている能力

【参考文献】

朝日新聞（2008 年 1 月 20 日）「話聞けない子どもに危機感 国語入試にリスニング」p. 1

半田敦子（2012）「母語教育における「リスニング」指導の必要性：非母語話者との比較から」

（国際基督教大学教育研究所）『教育研究』54，165-179.

旺文社（2015）『2016 年受験用全国高校入試問題正解 国語』



話すことの評価

鶴見大学 根岸 純子

文部科学省が民間の資格・検定試験の活用を視野に入れた上で、英語の4技能を測定する大学入試のあり方を提言している。現行の大学入試システムの影響により受容的活動（読むことや聞くこと）に偏りがちな現状の中、高校における産出的活動（話すことや書くこと）のうち、「話す」活動はどの程度行われているのだろうか。文科省による英語力調査（2014）における質問紙調査の結果をみると、高校3年生の「話す」活動の経験者は英語による討論等で35.2%、発表等で22.9%となっており、経験者数が少ないことから推測すると継続的な実施校は更に少数であると思われる。また、上記調査の試験問題の評価は欧州言語共通参照枠（CEFR）に準拠して行われているが、「話すこと」に関してはA1・A2（基礎レベル）、B1・B2（自立レベル）、C1・C2（熟達レベル）の6レベル中、被調査者の87.2%（無回答13.3%を含む）が、英検では3級程度に相当するA1レベルと評価された。

このような現状の下、4技能の測定を念頭に「話す」活動を考えた場合、高校の教育現場では実際に何をし、どのように評価すべきなのであろうか。現時点で文科省の求める「発表・討論・交渉」を英語で行うことができるのは、一部の上位校に限られるであろう。通常の高校では、より容易な課題と評価を念頭に置く必要

がある。一般レベルの高校生の英語力を将来の「発表・討論・交渉」力へ向上させるには、まず、「複数話者によるやり取り」の演習が必要ではないだろうか。やり取りの中で起こる「意味の交渉」は第二言語習得を促すという研究結果も報告されており、波及効果も期待できる。また、複数話者による対話は、より少ない時間でより多くの生徒を対象に教員が評価に専念できることも利点の一つである。一方で、「話す」ことの評価は評定者の主観にその多くを依存するため、信頼性を保つのが難しいとも言われる。しかし、「話す」能力を育成するには、厳密な意味でのテストの妥当性や信頼性を論ずるよりも、認知的負荷も高く、より素早い言語処理を要求される「話す」訓練を多く取り入れることが必要であろう。評価に関して言えば、各校の実態に応じて作成しているCAN-DOリストを活用し、教員による評価のみならず、生徒による自己評価および相互評価を取り入れるべきであると提言したい。生徒自身が評価者となるこれらの評価は、現在の自分が英語を用いてできることを把握し、次のレベルの内容を自ら確認することを生徒に促すことができる。このことにより、評価と学習の一体化が図れるのではないかと考える。



テストがさらに権力化し 教育を歪めるかもしれない

広島大学 柳瀬 陽介

紙幅が限られているので、抽象的な表現となってしまうことを最初にお詫びしておく。今後の英語教育界は以下のような論理で動いていくように私には思える。(1) テストで四技能を評価することにより英語コミュニケーション能力がほぼ十全に評価できるようになる。(2) そういった四技能テストは複数ありうるが、それらの得点は定式化された相互換算表により標準化・一元化された数値やレベルで表現できる。(3) 標準化・一元化された数値やレベルこそが、英語教育の価値を客観的（あるいは科学的に）表す尺度となる。(4) 学習者個人が受験校合格や奨学金など、学習者を育てる組織（学校や学級）が予算・人員や賞賛などの権力を獲得できるかどうかは、その尺度での達成度によって決定されるべきであり、その他の客観的・科学的でない方法で決定されるべきではない。

しかしこれらの論理には疑義が加えられる。(1)' 四技能テストが評価できるのは、私たちが想定する英語コミュニケーション能力の一部にすぎない。なぜなら、リーディングとリスニングが一つの正解しか認めない多肢選択方式で問われるなら、現実世界でしばしば争点になる含意をめぐる多面的な解釈を問題にすることができなくなるからであり、スピーキングやライティングのテストで評価できるのも「よくある話」を適当に産出できるかのみだからだ。自分に忠実でありながら、特定の時空で特定の相手に対して何をどのように言うかという現実世界のコミュニケーションの条件が、四技能テストでは捨象されている。四技能テストでのある程度の得点は、実際の英語コミュニケーション

ン能力の必要条件ではありえても、十分条件ではありえない。(2)' 複合的な社会の変化に対応するためには、人々が均一化するのではなく、個々人が個性を発揮しながら社会全体として多様性を活かすことが必要である。評価もできるだけ多元的であり多様であるべきだ。しかし、標準化・一元化の推進はそれとは反対方向にある。標準化・一元化の動向は学習者の学びのためというより学習者と教師の管理のためではないか。(3)' ここで「客観的」とされるのは、過去のデータから推測される点数の相互換算関係だけだ。そもそも「客観的」な得点は、学習者が自らの心身で感じる喜びという価値（worth = 真価）を示したものではない。それどころか、自分の学びの価値を、もっぱら外から定められる「客観的」な得点だけに見出そうとするなら、それは学びにおいて主体性を喪失する疎外へとつながりかねない。世評への隷属ともいえるだろう。(4)' いかなるテストにも高得点獲得のための対策を行うことが可能であろうが、テストの権力性が高まれば高まるほど（high-stakes になればなるほど）テスト対策がはびこり、教育の営みが歪められる。

以上、観念的に聞こえたかもしれないが、これらの疑義はきわめて常識的な感覚であると筆者は考えている（紙幅があればもっと平易に説明したいのだが）。もしこれらの疑義にもかかわらず、(1) ~ (4) の論理がやたら推進されるとすれば、次の疑問はこれだ。「英語四技能テスト推進言説の背後にあるのは何か？そこには何らかの権力奪取・増強の狙いがないか？その陰で本来もつべき権力を奪われる者は誰か？」



「入学者選抜における 英語の資格・検定試験の活用促進」 に関する議論について

清泉女学院短期大学 中村 洋一

2015年3月から定期的に行われている文部科学省の「高大接続システム改革会議」では入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する検討がなされ、『中間まとめ』において「四技能を踏まえた作問の質」、「日本人の英語力の現状を踏まえたテスト開発」、「機会の不均等の解消」、「各試験間の得点換算・対照表の作成及び活用」について議論が行われていることが報告された（pp. 45-46）。それぞれの課題を解決していくためには、慎重な検討を継続していくことが不可欠である。

同じく文部科学省が開催している「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」でも指摘事項（資料5、資料7）として報告されているように、構成概念の異なるテストの結果を換算することは大変困難なことである。「かんさん」を広辞苑で引くと「ある単位で表された数量を他の単位の数量に直すこと」とあり「円をドルに—する」との用例が出ている。外貨両替であれば、外国為替のルールに則って、その時々「等価」を公正に計算することが可能である。しかし、英語の能力を測定するための「各試験間の得点」を換算すること

は、そう単純ではない。異なるテスト結果の換算に対しては、外国為替のような明確なルールが存在しないからである。そこで、それぞれのテストの受験者データから、なんらかの連関、あるいは相関を「推定」して換算することがひとつの方法として考えられるが、多数の身長データと体重データの関係性を基に、この身長の人々の体重は何キロと予測する程度の精度では明らかに不十分である。

「高大接続改革実行プラン（p.1）」は、「既存の『公平性』をめぐる意識を改革し」、「多様な力を多様な方法で『公正』に評価し選抜する」としているが、得点換算・対照表は、大規模で利害関係が非常に高い入学希望者選抜において公正なツールになり得るのか、また、そのための方法論が確立できるのか、解決すべき課題は山積している。入学希望者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進の議論を深めていくためには、本来的な高大接続システムの在り方に関わる根本的な問題の所在を突き詰めながら、得点換算・対照表の作成に関する実現可能性の追求と併せて、英語の資格・検定試験の活用促進そのものの是非についても、慎重に検討することが重要である。

【参考文献】

- 文部科学省（2014）「英語教育のあり方に関する有識者会議 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会 審議のまとめ」
 - 文部科学省（2015）「高大接続改革実行プラン」
 - 文部科学省（2015）「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会（第2回） 配付資料
【資料5】作業部会における検証状況について—検証事項に関するデータ・論点—、【資料7】作業部会における主な意見」
 - 文部科学省（2015）「高大接続システム改革会議『中間まとめ』」
- （以上、文部科学省の文書は http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/064/index.htm より2015年11月取得）



受験指導は悪くない —建設的な受験指導のために—

上智大学 渡部 良典

指導改善は教師の仕事、試験に指導改善はできない

試験があればそれに向けて勉強をするのが当然であり、また指導をするのも当然である。テストや試験の影響を波及効果（washback effect）といい、教育・学習評価研究においては、妥当性—テストの意図した目的が達成できたかどうか—研究の重要な一分野であり、多くの研究が行われている。そして、どの調査の結果も同様に示しているのは、テストを変えるだけでは教育は変わらない、という誠に単純な真理である。数ある仮説の中でもこれまで反証されていない最も有力なのは「テストは教育内容を変えるが、教育方法は変えない」というものである。

ではどうすればテストを効果的に使って教育、指導、学習を向上させることができるのか、という実践的な課題を解決することが次なる研究課題であり、波及効果の研究は現在この段階にきている。イノベーション理論や動機づけの理論での解明が行われているが、その中の一つに受験指導および学習方法の充実が挙げられる。すなわち、試験に成功することと対象科目の能力向上が同一線上にあると仮定し、対象科目の能力を鍛えるためにはどのようにすればよいのか、ということが課題となる。

本稿では大学入試センター試験の英語リスニングを例に取りいくつかの実例を考えてみることにしよう。

英語リスニングテスト対策指導の例

最初に問題例を見てみよう。これは2014年度実施センター入試のリスニング問題である。皆さんが教員として指導する場合どのように取り扱うだろうか。

第4問Bは問23から問25までの3問です。これから流れる英語を聞き、それぞれの問いの答えとして最も適切なものを、四つの選択肢（①～④）のうちから一つずつ選びなさい。では、始めます。

Question No. 23 to 25

Helen Keller, admired for her work on behalf of people with disabilities, visited Japan three times. She was unable to see or hear, but she was impressed with the kindness of the Japanese people and developed an appreciation of Japan and its culture.

She first came to Japan in 1937, when she was invited by the Japanese government to make a lecture tour throughout the country. While she was here, she was moved by the story about the faithful Akita dog, Hachiko, and wondered if she could have such a dog. Ichiro Ogasawara, a police officer in Akita City, kindly gave her one of his own puppies. She named this dog Kami.

She took Kami home with her, which made Kami the first Akita dog to go to the United States. In a letter to a friend, she called Kami an "angel in fur" and said that he was especially gentle and devoted. She loved this dog so much that she asked for another Akita dog, which was sent to her in 1939. This dog was Kami's brother, and she called him Go-Go. Helen Keller's dogs received a lot of attention in the United States, which helped to introduce Akita dogs as popular pets for Americans.

これで、問題を聞く部分はすべて終わりです。
この後は、監督者の「解答やめ」の指示があるまで、解答を続けることができます。
これからイヤホンを外してもらいます。その時に、イヤホンが机に当たって音を立てないように注意してください。
では、イヤホンを耳から外し、静かに机の上に置いてください。

最も簡単（安易）なのは、生徒の自主的学習に任せ てしまうことである。あるいは、授業で時間を割いて 音声を生徒に答えさせ、そして答え合わせをする、 模擬テスト方式である。これもまた同様に安易であり、 生徒が各自家庭学習でやればよいことであり、わざわざ 学校において一斉でやるのは時間の無駄である。

受験英語指導も英語力養成の機会というふうにとらえ れば、いくらでも指導方法は考えられる。中でも簡単 にできる練習としては、ノートを取る（note-taking の） 練習、集中して聞き要点を思い出して話したり書いたり するリコール・タスク（recall-task）、録音された 音声の後を追いつつながら発話練習をするシャドーイング （shadowing）などがすぐに思い浮かぶ。

これらを一連の活動として例えば以下のようにして 指導することができる。

- 1）1 回目のリスニングは集中して聞かせる。
- 2）聞いた後内容を思い出してノートに書かせる。
- 3）2 回目のリスニングでノートを確認させる。必

要があれば書き足す。

- 4) ペア、あるいは3名程度のグループでノートを確認させる。
- 5) 生徒の何人かに重要語（キーワード）を黒板に書かせる。口頭で言わせて教員が板書してもよい。
- 6) 再度リスニング、黒板に書き取った語句が確かに使われているかどうかを確認させる。

この後は、まとめとしてサマリーをさせてもよい。
すなわち、

- 7) メモを見ながらできるだけ沢山の文を作らせる。
- 8) 作成した文をつなぎ合わせてまとめの英文を書かせる。

さらに、内容を確認するためにスクリプトを見せてから（紙で配布してもよいし、パワーポイント等で順次文を提示してもよい）シャドーイングを行う。すなわち、

- 9) 音声を流し、生徒にはスクリプトを見ながら聞かせる。
- 10) 再度音声を流し、生徒にはスクリプトを見ないで音声を追って発話させる。
- 11) 最後にスクリプトを見ながら発話させる。

ここまで練習をすれば、リスニング教材でスピーキング、ライティング、リーディングの4技能、さらに語彙と文法の訓練にもなる。

4 技能と語彙文法力を同時に伸ばすことが必要

リスニング力はリスニングだけを練習すれば向上するというのは幻想である。語彙、文法、読解の能力とともに伸びてゆく。少なくともそう考えた方が生産的である。また産出能力（ライティング、スピーキング）は、単に伝達的手段なのではなく、自分の言語能力を試す機会となり、自分の能力に何が欠けているかに気

づく契機となるという有力な仮説—メリル・スウェインのアウトプット仮説—もある。

受験指導におけるリーディングも同様である。読解テストの教材を使って、サマリーの書き方を指導しているだろうか。スキミング、スキヤニング、単語の意味の推測等々、読解力の下位技能は指導しているだろうか。指導していないとするならば、それはなぜなのか。試験に出ないからというのは言い訳に過ぎない。例えば、センター試験に直接サマリーを書かせる問題は出題されないが、要点を把握する読解力が鍛えられる。試験で高得点を取るためには確かにある程度の受験技能は必要だ。しかし、受験指導の最も重要なのは受験技術の指導であるという理屈は正当化されうるだろうか。それにほとんどの時間と労力を使うのは無駄ではないだろうか。特定の受験技術が必要だとすればそれはマニュアルのような形で、受験者全員に提供すればよいだけのことだ。予備校や受験指導に熱心な学校だけで伝授されるのではむしろ不公平である。受験技能は公開することを原則とする。そして残りの時間では上で述べたような英語力向上のための訓練を徹底的に行う。

受験生は動機付けられている。外的動機づけ（external motivation）あるいは道具的動機づけ（instrumental motivation）等と呼びならわされ、あたかも低い意義しかないと言われることもあるが、そんなことはない。外的動機づけがあるきっかけで本当に対象科目への興味関心につながる可能性を示す、ゴードン・オールポートの動機の機能的自律性（functional autonomy of motives）という理論もある。試験の質を向上させる必要があることはいうまでもない。しかしながら、同時に受験という機会を生かす主体は試験に臨む人間、すなわち教員と学習者であるということを重く受け止めたいと思う。

■ **ELPA 〈エルパ〉 英語教育セミナー 2016** ■

2020 年に向けて高校教育、大学入試、大学教育が大きく変わろうとしています。この改革の中で「英語教育」に関しては大学入試への外部テスト導入をはじめ、2019 年中学 3 年生対象の英語 4 技能テストの実施、2019 年度から始まる CBT(コンピュータを使ったテスト)、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」での英語 4 技能テストの実施、2020 年度「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」での英語 4 技能テストの実施など「英語 4 技能」に関わる評価についての話題が取り上げられています。ELPA では「大学入試」「英語 4 技能テスト」に焦点を当て、中学・高等学校での 4 技能に対応した授業及び評価について、ELPA 理事及び学校現場の先生方を交え、踏み込んだ内容でトークを展開していきます。セミナー途中では情報交換会も実施いたします。

「大学入試改革」「英語 4 技能テスト」についてのご質問・ご意見をお持ちの先生方、教育関係者の皆様、ぜひご参加下さい。



※セミナーごとに若干内容を変更する場合がございます。

2016 年度は名古屋、札幌、仙台、富山、大阪、広島、福岡、東京、大宮 全国 9 会場で開催をいたします。

開始 **13:30 ~ 17:00** (13:00 ~ 受付開始)

※東京会場のみ 14:30 ~ 18:00 (14:00 ~ 受付開始)

定員 **100 名**

主な対象：中学校・高等学校の先生方、教育関係者

参加費 一般 **2,000 円** / ELPA 会員は無料

講師

ELPA 理事 金谷 憲

東京学芸大学名誉教授。実践的な指導法や英語教師の育成に力を注ぎ、日本の英語教育の発展に寄与しつづけている。高校英語授業の改善を目的とした Sherpa プロジェクト(アルク)リーダー。

ELPA 理事 根岸 雅史

東京外国語大学教授。英語教育に関する全国調査や諸試験の開発など、多数の研究プロジェクトに参加している。CEFR-J 研究プロジェクトのメンバー。講演・著書多数。

**2020 年度
大学入試改革
に向けて**

**英語 4 技能テスト対応の
授業を考える**

英語の4技能を測定する外部試験の比較表 ※ 1

試験名	実施団体	主な受験者層	目的・出題意図	国際通用性 ①実施国数 ②主な活用地域 ③海外団体との連携	実施方法 試験時間	年間 実施回数
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	テスト作成：ケンブリッジ 大学英語検定機構 日本事務局：基盤学力総合 研究所（Z会グループ）	中学生 高校生 大学生 社会人	英語圏における日常生活に必要 とされる実践的な英語力がある かを評価する	①世界 130 カ国 ②英国、欧州、オーストラリア、 ニュージーランド ③CaMLA（米国ミシガン大学）、 OET（豪州）等	LRW：紙/CBT S：ペア面接 〔試験時間〕 PET：2 時間 12 分 KET：1 時間 50 分	2 - 3 回
実用英語技能検定	日本英語検定協会	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人	英語圏における社会生活（日常・ アカデミック・ビジネス）に必 要な英語を理解し、使うことが できるかを評価する	①約 50 カ国 ②アメリカ、オーストラリア、 カナダ等※留学の際の語学力 証明として認定 ③アジア 6 地域 7 団体および CRELLA（英国）	LR：紙/CBT (W)：紙 (S)：面接/CBT 〔試験時間〕 2 級：1 時間 47 分 準 2 級：1 時間 36 分	3 回
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人 進学基準研 究機構 (CEES) と共催	高校生 大学生	英語をしようする大学で機能で きる（アカデミックな）英語コ ミュニケーション力を測る	②北米 (ELS Educational Services)	LSRW：CBT 〔試験時間〕 2 時間 55 分	3 回 (H27)
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	中学生 高校生	英語によるジェネラルな状況に おけるコミュニケーション能力 を測る		LRW：紙 S：タブレット端末 〔試験時間〕 1 時間 55 分	2 回
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定 機構、日本英語検定協会 等	高校生 大学生 社会人	英語を用いたコミュニケーショ ンが必要な場所において、就学・ 就業するために必要な英語力 があるかを評価する	①140 カ国以上 ②EU 諸国、オーストラリア、 カナダ、ニュージーランド、 アメリカ合衆国等	LRW：紙 S：面接 〔試験時間〕 約 2 時間 59 分	約 35 回
TEAP	日本英語検定協会	高校 2 年生 以上	EFL 環境の大学で行われる授業 等で行う言語活動において英語 を理解したり、考えを伝えたり することができるかを評価する	③CRELLA（英国）	LRW：紙 S：面接 ※2016 年度より TEAP CBT 実施開始予定 〔試験時間〕 3 時間 20 分	3 回
TOEFL (TOEFL iBT)	テスト作成：ETS 日本事務局：CIEE	高校生 大学生 社会人	高等教育機関において英語を用 いて学業を修めるのに必要な英 語力を有しているかを測るこ とを目的とする	①130 カ国以上 ②英語圏（北米、オーストラリア、 ニュージーランド等）、非英 語圏（ドイツ、オランダ、トルコ、 韓国等）※入学選考基準に活用	LSRW：CBT 〔試験時間〕 約 4 時間	40-45 回
TOEFL Junior Comprehensive	テスト作成：ETS 日本事務局：GC&T	中学生 高校生 大学生	英語を母国語としない中高生の 英語運用能力を世界標準で評価 する	①8 カ国 (2 技能については既に 50 カ 国以上)	LSRW：CBT 〔試験時間〕 2 時間 14 分	2 - 3 回
TOEIC	テスト作成：ETS 日本事務局：IIBC	高校生 大学生 社会人	一般からビジネスまで幅広い英 語によるコミュニケーション能 力（「聞く、読む」能力）を測 定する	①150 カ国	LR：紙 〔試験時間〕 2 時間	10 回
TOEIC S&W	テスト作成：ETS 日本事務局：IIBC	高校生 大学生 社会人	国際的な職場環境において、効 果的に英語でコミュニケーショ ンするために必要な「話す、書 く」能力を測定する	①150 カ国	SW：CBT 〔試験時間〕 1 時間 20 分	24 回

※ 1 [英語4技能試験情報サイト]内「資格・検定試験比較一覧表」(<http://4skills.eiken.or.jp/qualification/comparison.html>) ならびに「主な英語の資格・検定試験に関する情報一覧
(2015年9月29日現在)」(<http://4skills.eiken.or.jp/qualification/pdf/20150929.pdf>) より抜粋して作成。

試験名	会場数	成績表示方法	評価基準	受験料	備考
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	全国 10 会場	KET/PET/FCE/ CAE/CPE/CEFR 、 合否、スコア (80-230)、 グレード	〈読む〉コンピュータ採点 〈聞く〉記述問題以外はコンピュータ採点 〈話す・書く〉ケンブリッジの評価基準の研修を受けた採点 者が評価。 〈採点基準〉オンラインにて公表情報あり	PET 11,880 円 - KET 9,720 円 -	
実用英語技能検定	全国約 17,400 会場 (準会場、離島等を含 む)	1 級 - 5 級 合否による表示 H27 より スコア・バンド併記	〈読む・聞く〉コンピュータ採点 〈話す・書く〉採点者が評価基準に基づいて評価 〈評価基準〉 http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/criteria/	・ 準 1 級 : 6,900 円 ・ 2 級 : 5,000 円 ・ 準 2 級 : 4,500 円	2016年度より 2級にライティング、 4級・5級にスピーキ ングを導入
GTEC CBT	全国 57 会場 (H26 実績)	0-1400 点	〈読む・聞く〉コンピュータ採点 〈話す・書く〉2名の採点者が評価基準に基づいて評価	9,720 円	
GTEC for STUDENTS	学校会場	0-810 点	〈読む・聞く〉コンピュータ採点 〈話す・書く〉2名の採点者が評価基準に基づいて評価 〈ライティングの採点基準〉 http://gtcec.for-students.jp/ product/pro_student.htm#writing	3,080 円 ※Speaking 含む場合 : 5,040 円	スピーキング受験は オプション
IELTS	公開会場 : 全国 18 都市 特別会場 : 全国約 50 の主要大 学・教育機関	1.0-9.0 (0.5 刻み)	〈読む・聞く〉・研修を受けた採点者による採点 ・各 40 項目の正解数によってバンドスコアが決定 〈話す・書く〉資格を持ち、研修をうけた試験官 1 - 4 名に より評価基準に基づいて評価 〈評価基準〉 http://www.ielts.org/researchers/score_ processing_and_reporting.aspx	25,380 円	
TEAP	全国 11 都市 約 30 会場 ※今後拡大予定	80-400 点	〈読む・聞く〉コンピュータ採点 〈話す・書く〉複数名の採点者が評価基準に基づいて評価 〈評価基準 : 書く〉 http://www.eiken.or.jp/teap/construct/ rating_crit.html 〈評価基準 : 話す〉 http://www.eiken.or.jp/teap/construct/ sp_rating_crit.html	4 技能受験 : 15,000 円	2 技能 (リスニング・ リーディング) あるいは 3 技能 (リスニング・ リーディング・ライティ ング) でも受験可能
TOEFL (TOEFL iBT)	約 90 会場	0-120 点	〈読む・聞く〉コンピュータによる自動採点 〈話す〉複数の採点者が採点基準表に基づいて評価。採点基準 : https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_speaking_rubrics.pdf 〈書く〉採点者とコンピュータによる自動採点。採点基準 : https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_writing_rubrics.pdf	230US ドル	受験にはパスポートが 必要
TOEFL Junior Comprehensive	全国約 170 会場	0-352 点	〈読む・聞く〉コンピュータ採点 〈話す・書く〉Online Network for Evaluation (ONE) に基づき、 所定のトレーニングを終了した複数の査定員 (レイター) によって採点	9,500 円	
TOEIC	最大 256 会場	10-990 点	〈読む・聞く〉コンピュータ採点 常に評価基準を一定に保つためにスコアの同一 化 (Equating) と呼ばれる統計処理を行い算出	5,725 円	
TOEIC S&W	最大 30 会場	0-400 点	〈話す・書く〉ルーブリックに基づき、採点の訓練を受けた複数 の評価者が採点 ETS の統計の専門家がすべての採点結果を分 析・検証 〈評価基準〉 http://www.toeic.or.jp/library/toeic_data/sw/ sampletest/pdf/sw_handbook.pdf	10,260 円	

※ 2 CEFR について : CEFR は外国語の熟達度の参照基準として作られたものであり、元来はある特定のテストの評定に用いたり、異なる言語テストを比較検討するために作られた基準ではない。このことを踏まえ、ELPA の資料では CEFR と各言語テストとの関連を出さないこととする。

■ **ELPA 2016 年度英語教育セミナー** ■

—— 2020年度 大学入試改革に向けて ——

「英語4技能テスト対応の授業を考える」



※各会場とも駐車場がございませんので、公共機関をご利用下さい。

実施スケジュール	日時		会場	講師
	2016 年	8月27日(土)	名古屋：ウィンクあいち	金谷 憲
		9月3日(土)	札幌：ACU	金谷 憲
		10月22日(土)	仙台：仙都会館	金谷 憲
		10月29日(土)	富山：ポルファートとやま	根岸 雅史
		10月30日(日)	大阪：梅田スカイビル	金谷 憲
		11月13日(日)	広島：RCC 文化センター	根岸 雅史
		11月26日(土)	福岡：AQUA 博多	根岸 雅史
		12月17日(土)	東京：研究社 英語センタービル	金谷 憲・根岸 雅史
	2017 年	1月21日(土)	大宮：大宮ソニックシティ (予定)	金谷 憲

主催・問い合わせ

NPO 法人 英語運用能力評価協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-3-4 大江ビル 1 階

TEL : 03-3230-0571 FAX : 03-3230-0572

MAIL : elpa@english-assessment.org HP : http://npo-elpa.org/



表紙について：黄昏のテーブル湾とシグナル・ヒル（ケープタウン）

南アフリカでもっとも有名な都市のひとつ、ケープタウン（Cape Town）。オランダ植民地時代の面影を残す港街で、アフリカ有数の世界都市でありながら海と数々の山や丘に囲まれた、自然豊かな場所です。あちこちにヨーロッパ風の建築が見られ、南部にはその名のとおりの山頂が平坦なテーブルマウンテン（Table Mountain）がどっしりと腰を下ろしています（写真左側）。写真中央の2つの丘は街の西側に位置し、ライオンが横たわっているように見えることから、それぞれライオンズヘッド（Lion's Head）、ライオンズランプ（Lion's Rump）と呼ばれています。ライオンズランプはシグナル・ヒルとも呼ばれ、好天の日は山頂から街一帯の風景のほか、あのネルソン・マンデラも収監されていたロbben島（Robben Island）を見ることができます。ケープタウンの夏は日が長く、日没が20時半を過ぎます。また日の入りが1時間半程度と長く、そのため地元ではサンダウナー（Sundowner）と呼ばれる、日の入りを見ながら飲食を楽しむ習慣があります。黄昏時、太陽が美しい夕焼けを残しながらシグナル・ヒルの向こうへ沈んでいく様子はまさに絶景です。アパルトヘイトによって多文化共生社会を壊されたという負の歴史も負っている街ですが、海、山、そして夏の日の入りは、今も昔も変わらず美しく、人々の生活を見守っています。

FROM EDITORS

- 北群馬の田舎から上京して3年が経とうとしています。今年のゴールデンウィークは、前半に弾丸で長野の実家に帰省しました。離れて暮らす甥・姪がしばらく見ないうちにずいぶん大きくなっています。昨日生まれたばかりと思っていたのに……。そして一回り以上歳の離れた妹の通学かばん（私のお下がり）を見て彼女が中学生になったことをようやく実感し、歳を重ねるごとに月日の流れがどんどん速くなっているのを感じたのでした。私もそろそろ田舎に戻りたい……。？（中村）
- ゴールデンウィーク（GW）の語源が「映画業界」からという事で、毎年この期間には映画を新旧問わず10本以上観ることを心がけています。今年は11本観たのでノルマはクリアです！「シビルウォー キャプテン・アメリカ」では「正義」について、いろいろと考えさせられました。（白戸）